

カワセミ

1989年 2月 第 2 号



八王子カワセミ会

カワセミ第2号 目次

☆	八王子カワセミ会第一回総会 開催さる	1
☆	八王子カワセミ会の調査活動について	2
☆	昭和63年度八王子カワセミ会5大ニュース	4
☆	定期カウント集計結果	5
☆	鳥信	9
☆	八王子市の鳥は何でしょうか ?	10
☆	甲州街道アーケードのツバメの巣	13
☆	浅川流域におけるイワツバメ営巣調査	14
☆	ヤマセミの巣作り観察記録	18
☆	私の初体験	19
☆	東浅川にヒメアマツバメの越冬コロニー	20
☆	湯殿川の野鳥	21
☆	渥美で初めてツバメチドリを見る	24
☆	探鳥会に初めて参加して	25
☆	浅川の堤防で「ヒミズ」発見	26
☆	この自然 いつまでも	26
☆	年末探鳥会 真鶴半島で開催	27
☆	P・Rのページ	28
☆	編集後記	29

八王子カワセミ会第一回総会 開催さる

— 平成元年の事業計画など決定 —

1989年（平成元年）1月15日（日）、八王子市天神町会館において、八王子カワセミ会として初の会員総会が開催されました。

これまでは定着会員の問題等もあり、有志的なグループ活動としての会合をもっておりましたが、1988年（昭和63年）には会の活動が、八王子市の広報をはじめ新聞等に取り上げられ、また会報を発行するなどして、一般市民へのPRが広がり、入会者が増え、会として一応の形が整えられつつあることを考慮し、正式に総会をもつことになった次第であります。

総会には18人の会員（過半数）が出席しました。

当日は、全国ガン、カモ類一斉調査日に当たり、午前中、総会出席会員の殆どが浅川流域全域にわたり調査を行い、午後の総会にその結果を持ちよりました。

総会は、午後3時、粕谷会長の挨拶に始まり、規約並びに前年度事業報告が承認され、本年度事業計画を審議、可決し、引続き本年度役員の変更を行って午後6時終了しました。

本年度事業計画の概要及び役員は次の通りです。

(1) 事業計画

1. 会員探鳥会（6回）、公開探鳥会（3回）、遠出探鳥会の実施。
2. 定点カウント調査（毎月）の実施。
3. ガン、カモ類、イワツバメ、カルガモ、の一斉調査の実施。
4. ヒメアマツバメの生態調査の実施。
5. 巣箱掛けと利用状況調査（片倉城跡公園）
6. その他
7. 会報「カワセミ」の発行（2月、8月）

(2) 役員

会長：粕谷和夫。 副会長：藤江 豊、榎沢 努。

事務局長：斎藤高昭。 会計長：門口一夫。 顧問：城所庫之助。

編集長（会報カワセミ）：三好恒雄。

以上。

八王子カワセミ会の調査活動について

八王子カワセミ会では探鳥会の他に浅川の流域を中心に野鳥分布の各種調査をそれぞれ会員のボランティア活動として行っています。

浅川やその周辺にどんな鳥が、何時、何羽いるかを記録しておくことは、将来の八王子市、日野市などにおける私達人間の生活環境を考えるうえで貴重な資料を与えてくれます。

現在行っている調査は次表の通りです。 昨年の調査結果の一部はこの会報にも載せてありますが、他にも多摩地区の新聞社や市役所などに贈り、市民に対する浅川の野鳥の啓蒙に資しており、一部は実際にいくつかの新聞にとりあげられております。

この表にも見られるとおり、今のところ小人数で非常に多くの調査を行っておりますので、会員の皆さんの一人でも多くの方の参加又は協力をお待ちしております。調査又は協力に関するお問い合わせは齋藤事務局長又は役員までお願いします。

(調査活動一覧表)

1. 一定地域を対象とした調査

調査場所(区域)	内容	調査回数
1. 浅川(松枝橋-鶴巻橋)	全野鳥のカウント	毎月1回(年12回)
2. " (浅川橋-大和田橋)	"	"
3. " (大和田橋-長沼橋)	"	"
4. 小宮公園	"	"
5. 片倉城跡公園	"	"

次ページへつづく

6. 多摩川 (滝山城跡下)	全野鳥のカウント	毎月1回 (年12回)
----------------	----------	-------------

2. 特定の鳥を対象とした調査

鳥名	内 容	調査期間	対象地域
カルガモ	繁殖状況 (親子の数のカウント)	7 月	浅川全域
イワツバメ	" (巣の数のカウント)	5-6月	"
ユリカモメ	折返し点-浅川のどこまでいくか	10-5月	"
ヒメアマツバメ	京王線高架下のコロニーの動向	毎月1回	東浅川

3. 全国一斉調査に参加して行う調査 (日本野鳥の会主催)

(名 称) ガン、カモ、ハクチョウ類全国一斉調査
 (内 容) 全野鳥のカウント (特にカモ類)
 (対象地域) 浅川の本、支流、
 (実施月日) 毎年 1月15日

4. その他の調査

名 称	内 容
渡り鳥の初認記録	毎年の渡り鳥の初認記録 (何時、何処で)
野鳥の繁殖記録	ササゴイ、カワセミ、ヒバリ、コチドリ等の繁殖状況
珍しい鳥の飛来記録	数年に1回位しか飛来しない鳥の記録
そ の 他	浅川流域の植物、野生動物の情報など

昭和63年 八王子カワセミ会 5大ニュース

◎10大ニュースを選ぶつもりでしたが、大きなニュースは次の5つとなりました。

(1) 会報「カワセミ」の発行

なんといっても大1位は会報の創刊です。大変立派な創刊号ができました。今後、年2回程度の発行を予定しております。

(2) ヤマセミの営巣発見と観察

6ヶ所の定点、定期カウントの中の1つである多摩川滝山城跡下のガケにヤマセミのペアが巣づくりをしているのを発見し観察をしておりましたが残念ながら途中で放棄してしまいました。今年の営巣を期待しましょう。

(3) 浅川流域全域でカルガモ親子の一斉調査を実施

浅川のカルガモ繁殖状況を調べる為、7月に親子別一斉カウントを行い、貴重なデータを得ることができました。ここ数年浅川はカルガモの繁殖地として定着したようです。

(4) ヒメアマツバメのコロニー調査開始

東浅川（八王子市初沢町）の京王線高架下のイワツバメの巣に昨年あたりからヒメアマツバメが侵入し、越冬しています。その数や営巣状況などを10月から毎月1回、観察調査を開始しました。今後、どのようなデータが得られるか楽しみです。

(5) 浅川でミコアイサ初認記録

山田川が浅川に合流する水菅橋付近で、12月にミコアイサが観察されました。カワセミ会としては初記録です。（注：平成元年1月に、アメリカヒドリ及びオカヨシガモが、ほぼ同じ場所で記録された）
今後さらに、どのような新顔のカモが現れるかたのしみです。

◆ 定期カウント集計結果 (63年後半分：7月-12月)

当会が行っている浅川を中心とした6ヶ所の定期カウント(毎月1回)の概要は次の通りです(63年前半分はカワセミ1号に収録)。

(1) 浅川(松枝橋-鶴巻橋)

月 日	担当者	種類	左の種類の中で注目したい鳥, ※()内は数
7, 30	三 好	2 9	ゴイサギ(14), ササゴイ(4), イカルチドリ(5), イソシギ(15), セッカ(4), カワセミ(2), オオヨシキリ(3).
8, 21	々	2 8	ゴイサギ(6), ササゴイ(4), イカルチドリ(3), キアシシギ(1), セッカ(2), イソシギ(6), カワセミ(3), オオヨシキリ(4).
9, 29	々	2 5	ゴイサギ(3), ササゴイ(1), ノスリ(1), イソシギ(1), イカルチドリ(9), ヒタキ(1), オオヨシキリ(1), カワセミ(1), セッカ(2).
10, 30	々	3 2	マガモ(4), イソシギ(5), カワセミ(2), イカル(1), イカルチドリ(4).
11, 27	々	3 5	マガモ(1), ハヤブサ(1), イカルチドリ(2), カワセミ(3), コゲラ(1), イカル(2)
12, 4	々	4 0	ダイサギ(2), マガモ(3), イソシギ(2), カワセミ(2), コゲラ(1), セッカ(2).

(2) 浅川(浅川橋-大和田橋)

7, 23	藤 江 榛 沢	1 7	ゴイサギ(6), ササゴイ(5), キジ(2), ウグイス(1), セッカ(2).
8, 23	々	1 7	ゴイサギ(1), ササゴイ(7), コヨシキリ(1), セッカ(3), オガ(3).

次ページに続く

(2) 続き

月 日	担当者	種類	左の種類の中で注目したい鳥, () 内は数
9, 20	藤 江 榛 沢	1 8	コイサギ(1), ササユイ(4), トビ(1), イソシギ(3), カワセミ(2), モズ(1).
10, 18	々 々	1 7	カワセミ(2), モズ(4).
11, 26	々 々	3 9	コイサギ(3), ダイサギ(1), マガモ(2), トビ(1), モズ(2), ジョウビタキ(2), アオジ(2).
12, 14	々 々	2 5	コイサギ(1), ダイサギ(2), アオサギ(1), マガモ(2), メジロ(1), ジョウビタキ(2).

(3) 浅川 (大和田橋—長沼橋)

7, 10	三 好	2 7	ササユイ(1), コチドリ(5), カッコウ(1), カワセミ(4), イカル(1), セッカ(8).
8, 7	探鳥会 斎 藤	2 6	ササユイ(7), キアシシギ(2), カワセミ(7), オオヨシキリ(4), セッカ(5).
9, 19	門 口	2 9	ササユイ(1), ハマシギ(3), カワセミ(1), オオヨシキリ(3), イカル(2).
10, 2	探鳥会 斎 藤	2 7	アマサギ(1), ハシ(1), カワセミ(4), コチラ(2), ビタキ(1), メジロ(1), オオヨシキリ(1), イカル(2), カケス(1), ヅグミ().
11, 20	三 好	3 3	ダイサギ(2), アオサギ(1), クサシギ(1), メジロ(2), カワセミ(1).

(3) 続き

月 日	担当者	種類	左の種類の中で注目したい鳥, () 内は数
12, 21	探鳥会 斎 藤	3 1	カイツブリ(2), ダイサギ(2), チョウゲンボウ(1), タシギ(1), メジロ(2), カワセミ(1), ウグイス(1).

(4) 小 宮 公 園

7, 22	榎 沢	1 7	イワツバメ(6), キセキレイ(1), センダイムシクイ(1), コゲラ(4).
8, 30	々	1 1	カルガモ(1), キセキレイ(1), オナガ(16).
9, 19	々	1 2	コゲラ(2).
10, 20	々	1 2	コサギ(1), ハクセキレイ(1), カケス(3),
11, 24	々	1 9	アカゲラ(1), キセキレイ(1), シロハラ(1), イカル(7), カケス(3).
12, 15	々	2 2	コサギ(1), カルガモ(2), ハクセキレイ(2), セグロセキレイ(1), コゲラ(4), カケス(6), オナガ(6).

(5) 片倉城跡公園

7, 19	門 口	1 8	トビ(1), カワセミ(1).
8, 13	々	1 8	カワセミ(1), コゲラ(1), オナガ(6),
10, 1	々	1 6	カワセミ(1), コゲラ(1).
10, 22	々	2 2	カワセミ(1), コゲラ(1), オナガ(2), メジロ(2).

(5) 続き

月 日	担当者	種類	左の種類の中で注目したい鳥, () 内は数
11, 19	門 口	2 5	ヒビ(1), コゲラ(2), タヒバリ(1), メジロ(1), カワセミ(1).
12, 17	々	2 6	エリカモメ(3), アオゲラ(1), タヒバリ(1), ルリビタキ(2), コゲラ(3), エナガ(2).

(6) 多摩川, 滝山城跡下

7, 31	斎 藤	2 7	キアシシギ(1), セッカ(3).
8, 16	々	2 4	オオヨシキリ(1), セッカ(2).
9, 18	々	2 7	バン(1), コゲラ(1), セッカ(1).
10, 9	々	2 7	タシギ(1), カッコウ(1).
11, 20	々 (野田)	3 9	ヨシガモ(1), タシギ(1).
12, 18	々	4 1	ヨシガモ(5), オカヨシガモ(16), ミコアイサ(10), タシギ(1).

鳥 信 鳥 信 鳥 信.....



このコーナーでは63年8月-12月間の浅川流域で確認された珍しい鳥を紹介
します。但し6ヶ所の定期カウントで記録したものは省略してあります。

(1) 冬鳥の初認

コガモ	9. 18.	中央線鉄橋前、12羽 (斎藤)
"	9. 20.	暁橋-浅川大橋間、1羽 (榎沢)
オナガガモ	11. 2.	暁橋北側下流、♂♀各1羽 (榎沢)
マガモ	10. 30.	暁橋-浅川大橋間、♂♀各1羽 (榎沢)
ヒドリガモ	10. 30.	大和田橋上流水菅橋付近、2羽 (斎藤)
タシギ	10. 16.	中央線鉄橋上流、2羽 (斎藤)
ユリカモメ	10. 29.	山田川、浅川合流点、1羽 (斎藤)
"	10. 29.	浅川大橋-水菅橋間、18羽 (榎沢)
ツグミ	11. 7.	浅川大橋上流水菅橋付近、1羽 (斎藤)
タヒバリ	10. 27.	中央線鉄橋上流オイルターミナル前、♂1羽 (斎藤)
ジョウビタキ	10. 18.	八王子市めじろ台町、(坂東達也)
"	10. 21.	大和田橋上流水菅橋付近、♂1羽 (斎藤)
"	10. 25.	浅川大橋-水菅橋菅、♂1羽 (榎沢)
"	10. 30.	八王子市中野上町5-29-3、♂1羽 (三好)

(2) 夏鳥の通過

ノビタキ	9. 19.	中央線鉄橋下流、1羽 (斎藤)
コサメビタキ	10. 20.	元横公園前の電線、1羽 (斎藤、城所庫之助)

(3) 夏鳥の終認

ササゴイ	10. 9.	元横公園前、1羽 (斎藤)
ツバメ	10. 10.	長沼橋上流、5羽 (斎藤)

(4) 希少種の出現

ミコアイサ	11. 27.	中央線上流水菅橋付近、♂1羽♀3羽 (斎藤)
"	11. 28.	同所 ♀2羽 (斎藤)
チョウゲンボウ	10. 2.	東浅川初沢のヒメアマツバメコロニー付近、1羽 (粕谷)
アオサギ	10. 16.	中央線鉄橋上流、1羽 (斎藤)

八王子市の鳥は何でしょうか？

日本の国鳥はキジ、東京都の鳥はユリカモメであることは皆さんご存知のとおりです。では、八王子市の鳥は何でしょうか……

実は未だ決まっておられません。会員の門口さんに調べていただいたところ、市としては、当面、制定の予定は無いとのことでした。

また、近隣の各市の状況を観ると（次表）、花及び木については、すべての市で制定していますが、鳥については多摩市、日野市、府中市の3市だけしか制定していません（多摩地区各市の花、木、鳥の制定状況）

市名	市の花	市の木	市の鳥
秋川市	キク	モクセイ	—
昭島市	ツツジ	モクセイ	—
多摩市	ヤマザクラ	イチョウ	ヤマバト（47年制定）
立川市	コブシ	ケヤキ	—
日野市	キク（49年制定）	カシ（49年制定）	カワセミ（58年制定）
福生市	ツツジ	モクセイ	—
町田市	サルビア	ケヤキ	—
八王子市	ヤマユリ	イチョウ	—
府中市	ウメ	ケヤキ	ヒバリ（44年制定）

鳥に対しては、花や木と比べ市民の関心が低いことによるものでしょうか。

近年の多摩地区における乱開発から緑を守り、川の清流を取り戻し、私達人間の生活環境を良くするためには、もっともっと鳥に対して眼を向けてもらう必要があります。多くの種類の鳥が安心して住める環境こそ、人間が人間らしく生活できる環境にほかならないのであります。

市の鳥を制定したからと云って、それが直ちに緑の保全や自然の保護などにつながるわけではありませんが、象徴としての鳥を定めることによって、少しでも市民の鳥に対する関心を高めることができますと思います。

そこで、八王子市においても早期に市の鳥を制定される事が期待されます。

その場合、市の鳥として何が最もふさわしいでしょうか。色々意見があると思います。私が候補としてあげるとしたら、カルガモ、カワセミ、シジュウカラ、コゲラ、カラス、などですが、私としてはカルガモを第一候補とします。その理由は後述の通りですが、いずれにしても、これを決める時は広く市民に呼び掛け、人気投票のようなことやって選ぶのが良いのではないかと思います。そのことによって市民の鳥に対する関心が一層高まるからです。

ともかく、今後会員の皆様のご意見を伺い、いずれかの時点で市の鳥の制定について市当局や広く市民に呼び掛けをしたいと思います。

(八王子市の鳥としての候補とその理由)

1. カルガモ

浅川にはカルガモの数が多く、このカモは他のカモと異なって一年中います。浅川本流だけでなく、すべての支流にもいて、市民との出会いの機会が多い鳥です。大型の鳥で親しみ易く餌を与えると近寄ってくるのもいます。

浅川で繁殖しており、五月～八月の間には浅川のいたる所で、可愛い子連れ親子を観ることができるのが、第一候補とした最大の理由であります。

市民の野鳥保護の意識を高め、浅川の自然環境を守る象徴としてカルガモ親子は最もふさわしくないでしょうか。

2. カワセミ

現在 浅川に10羽以上生息し、また繁殖も確認されています。

漢字で「翡翠(ひすい)」と書き、動く宝石とも呼ばれるこの鳥は、自然の中の生き生きした姿を一目見れば誰でも好きになり、浅川を象徴する唯一の鳥と云えます。但し、市の鳥とする上では、お隣りの日野市が1984年に既にこの鳥を市の鳥と決めてしまっていることが難点でありましょうか。

3. シジュウカラ

声はよし、棒ネクタイで正装した姿はよし、動きが活発で動作が可愛いシジュウカラは庭に来る鳥の中で最も人気の高い身近な鳥であります。ヒマワリの種やあぶら肉を庭に置けば必ずやってきて愛敬をふりまき、家の軒下などに巣箱をかけておけば利用してくれます。これを市の鳥とすれば、各家庭の庭や公園に積極的に呼び寄せる運動を展開し鳥に対する市民の意識を高めることができるでしょう。

4. コゲラ

日本で最も小型のキツツキで、ちょっとした雑木林があれば、シジュウカラやメジロ達に混じっていることが多い。林になって無くても庭に木があれば、たまには訪れてくれます。木の枝の下方から枝の先までエサを求めてよく動きぐさがとても可愛くて、一度観れば誰でもすぐ好きになる鳥であります。八王子市に雑木林をもっと増やし、コゲラがもっと身近になるような環境造りを目指して、この鳥を市の鳥とすることも考えられます。

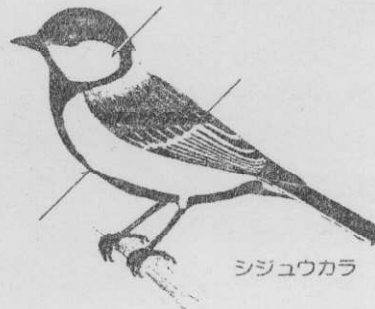
5. カラス

八王子市は童謡「夕焼けこやけ」の古里であります。「カラスと一緒に帰りましょう」と云うことになれば、八王子市の鳥として、この鳥も候補の一つとなりましょう。

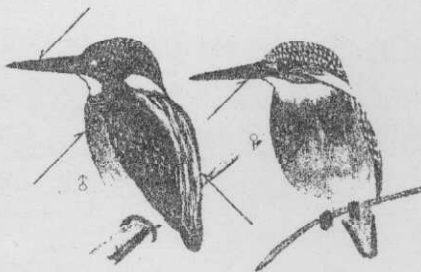
(粕谷和夫)



カルガモ



シジュウカラ



カワセミ



コゲラ

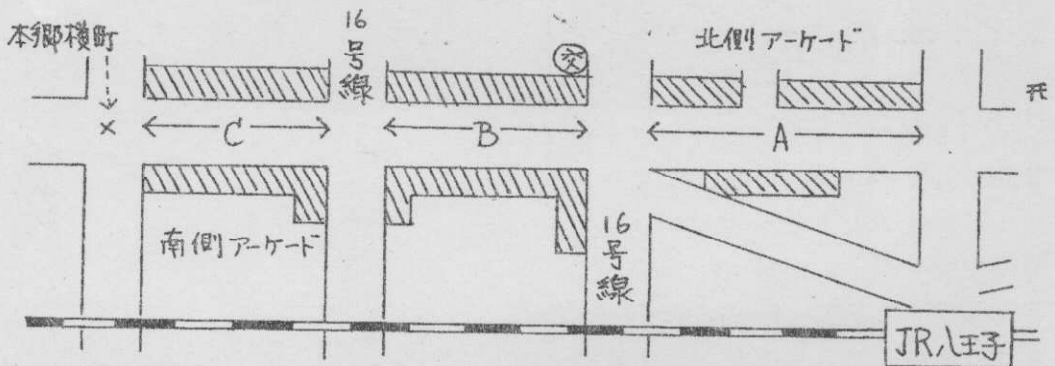
甲州街道アーケードのツバメの巣


ツバメは何故人家に巣を作るのか。ツバメに聞いてみないと判りませんが・・・一説によるとカラス等の天敵から人間に守ってもらう為だと云われています（最近ヒヨドリが団地のベランダの鉢植の木に巣を作ったり、カルガモが東京の大手町で繁殖し始めたのも同じような理由とされています）

最近では木造の建物が減り、コンクリートの建物が増えてきましたが、ツバメもその変化に適応してコンクリートのビルの壁などに巣を作っています。

八王子市内の甲州街道商店街は市の中心であり、買物客や通行人など人通りも多く、一日中混雑していますが、このアーケードで毎年ツバメの繁殖が行われています。

では、巣の数はいくつあるか・・・私は昭和61年からその年に利用している巣の数を調べました。調査区域は甲州街道沿いの両側のアーケードでJR八王子駅前から本郷横町までの約1.5kmです。 ※ 次図参照



(注)  の部分が調査対象アーケード

前年の巣が利用されずに残っているのも有るので、5月から8月の間に2回調査を行い、その中どちらかの調査で利用している事が確認できたものを記録しました。調査結果は次表の通りですが、年々減少しているのが気になり、特に63年は4巣しか確認出来ませんでした。

今後どうなるか調査を続けたいと思っております。

[八王子市内甲州街道アーケードにおけるツバメの営巣調査表]

年	計	南側アーケード			北側アーケード		
		A	B	C	A	B	C
61	22	2	6	5	0	4	5
62	14	3	3	4	0	3	1
63	4	1	1	1	0	1	0

(注) 南側アーケードの部分にはアーケード下以外の営巣も含まれている。
(文責 粕谷和夫)

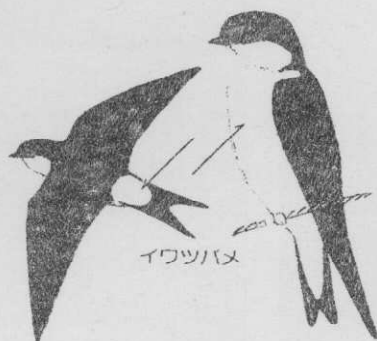
昭和63年の浅川流域におけるイワツバメ営巣調査

——— 集団営巣20ヶ所を確認 ———

八王子市、日野市の浅川流域にはツバメとイワツバメの2種類のツバメの仲間が夏鳥として南の国から渡ってきて繁殖しています。

イワツバメはもともと浅川地方にいたものではなく昭和の始め頃、長野県から害虫駆除のため、人工的にこの地方に移されたものの子孫が帰巣本能によって定着したものといわれております。

ツバメより体は一回り小さく、飛んでいる時腰の白い部分が目立つ事及びツバメのような長い尾が無いことで、誰でも直ぐに見分けられます。またイワツバメは集団で繁殖する性質があり、コンクリートの建造物などに好んで巣を作ります。近年八王子市、日野市には、コンクリート建造物が増え続けていますのでイワツバメの巣も増えているのではないかと考えられます。



そこで、「八王子カワセミ会」では昨年（62年）に引き続き、今年も浅川流域全域におけるイワツバメの営巣数を調査しました。

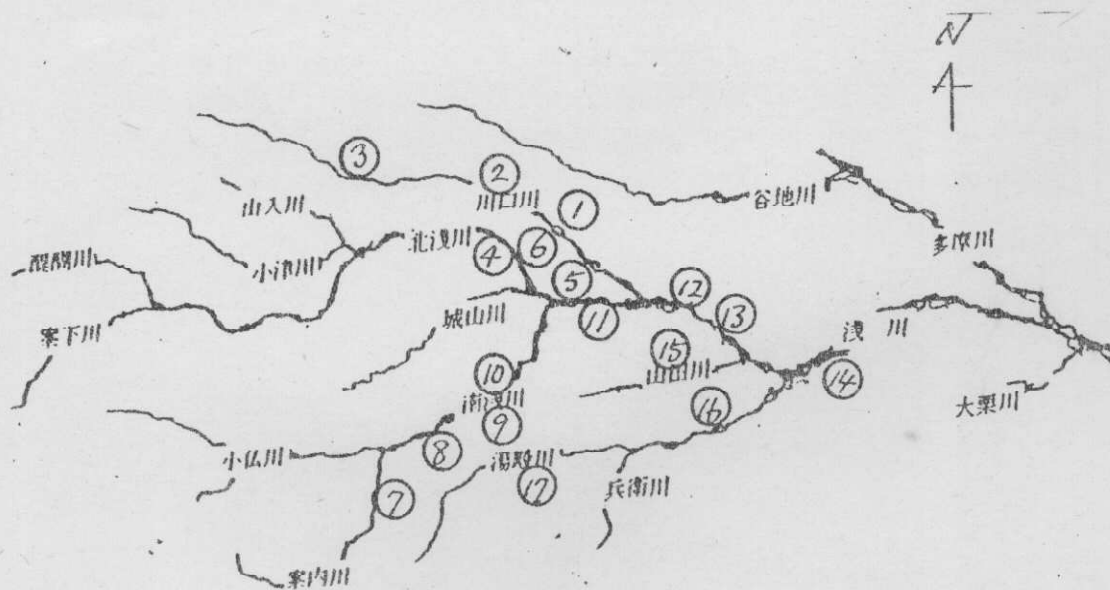
5月から7月の3ヶ月間に2回、今年利用している巣を対象にカワセミ会の会員9名がそれぞれ分担して調査しました。

その結果、別表の通り営巣場所を20ヶ所を確認しました。

その内、人工的に破壊された所及び営巣後放棄されてしまった所が3ヶ所あり、これを引くと17ヶ所になります。昨年と比べ新たに8ヶ所が確認されましたが、逆に昨年営巣して今年営巣しなかった所が4ヶ所ありましたので、差引き4ヶ所増えたことになります。

営巣場所の分布を見ると（別図）、浅川の中流部に集中しているが、これは営巣に適した建造物の存在か、或は昆虫などエサ場の関係か、この調査では判明していません。

イワツバメの営巣場所分布図（1988）



（注）○の中の番号は別表の「営巣場所」欄の番号です。

巣の数は262で、JR八王子駅及び大和田橋の2ヶ所が昨年同様に大きなコロニーになっています。

京王高尾山口駅⑦、京王高尾駅⑧、東浅川沖電気前⑨、などでは営巣数は別表に記載の結果よりもっと多いのですが、スズメに横盗りされたり、人工破壊されたりして、実際に利用されているのは意外に少ないという結果になっています。

なお、東浅川沖電気前では昨年からヒメアマツバメの越冬営巣が報告されておりますが（都市鳥研究会会報V o 1. 5 No. 1 1988年5月） 今回の調査でもヒメアマツバメの営巣が確認されました。

本報告は、朝日、毎日、読売、各新聞社支局及びアサヒタウンズ、ショッパーズ八王子市広報課、都市鳥研究会に送付したところ、63年9月27日付読売新聞の三多摩版で大きく報道されました。

本調査に参加した会員は次の方々です。

(調 査 区 域)	(調 査 者 名)
川口川流域	小沢憲雄
北浅川流域	三好恒雄
城山川流域	木村晴美
南浅川流域	榛沢努、藤江豊
山田川流域	坂東達也、斎藤高昭
湯殿川流域	門口一雄
浅川本流（鶴巻橋から長沼橋まで）	斎藤高昭
浅川本流（長沼橋から多摩川合流点まで）	門口一雄
調査企画、取纏め	粕谷一夫



昭和63年 浅川流域イワツバメ営巣数調査結果

水系別	営巣場所	62年	63年	営巣環境
川口川流域	市立清水小学校①	4	4	コンクリート建物
	市立陶器小学校②	-	1	コンクリート建物
	市立川口児童館③	-	かつ不能	コンクリート建物
	市立櫛原中学校	-	人工破壊	コンクリート建物
北浅川流域	北浅川中央高速橋④	17	30	コンクリート道路橋下
	市立第二中学校⑤	-	16	コンクリート建物
	シンワ(株)⑥	-	9	コンクリート建物
城山川流域	なし			
南浅川流域	京王高尾山口駅⑦	6	7	コンクリート鉄道高架下
	京王高尾駅⑧	10	5	コンクリート鉄道高架下
	東浅川神電気前⑨	20	5	コンクリート鉄道高架下
	南浅川東横山橋⑩	6	8	コンクリート道路橋下
浅川本流域	萩原橋⑪	0	2	コンクリート道路橋下
	曉橋⑫	0	14	コンクリート道路橋下
	大和田橋⑬	69	60	コンクリート道路橋下
	北野清掃工場	人工破壊	人工破壊	コンクリート建物
	ヤジマ生コン工場	25	営巣後放棄	コンクリート建物
	長沼橋	0	0	コンクリート道路橋下
	平山中学校⑭	-	3	コンクリート建物
	16号パイプ倉台付近	かつ不能	0	
	一番橋	1	0	コンクリート道路橋下
高幡橋	1	0	コンクリート道路橋下	
山田川流域	JR八王子駅⑮	50	92	鉄製デッキプレート橋上駅下
湯殿川流域	北野ハケシタビル⑯	1	6	コンクリート建物
	西田中橋⑰	-	かつ不能	コンクリート建物
計	営巣ヶ所数	14(13)	20(17)	()内は実際の営巣ヶ所数
	営巣数	210	262	である

注) 1. 長沼橋は59、60年に営巣が確認されている。2. 0は調査したが無かったもの、-は52年調査で見落とししたもの、又は未調査のものを示す。

ヤマセミの巣作り観察記録

——— 多摩川・拝島橋上流、滝山城跡下 ———

粕谷会長が名古屋に転勤の為、多摩川滝山城跡下の月例野鳥カウントを引継ぎ、63年3月13日、カウントに行きました。何時もの通りの駐車場に車をとめて、望遠鏡をセットしながら、ふっと崖の方へ目をやると、未だ芽ぶかない樹の枝に何やら白い物がある。急いで覗いて見ると、何と「ヤマセミ」でした。

記録によると、この地域でヤマセミが観察されたのが1942年（昭和17年）11月で、その後1950年（昭和25年）頃より姿を消してしまったそうです。

最近では、1987年（昭和62年）3月以降、大栗川と多摩川の合流点付近で観察され、繁殖もしています。

そこで、私達が拝島橋近くの崖で観察した「ヤマセミ」の記録を紹介します。

☆1987年

11月15日 拝島橋上流、水菅橋付近を高月方面へ飛翔 (斎藤)

☆1988年

3月13日 拝島橋上流の崖（巣穴発見） ♂1羽 (斎藤)

27日 第1の巣穴から200m離れた樹上 ♂1羽 (斎藤)

31日 ♂、♀一諸に居る所を確認、電線の上で交尾する
第一の巣穴に入る ♂、♀2羽 (三好)

4月 3日 ♂、♀良く鳴き交わす、第2の巣穴を交代で掘り始める
※第一の巣穴は野球場に近く、出入りする人が多い故か
放棄した模様 (斎藤、三好、門口、小山)

6日 ♂、♀交代で巣穴を掘る、交代の時、穴を掘っていた方が
巣から出る時鳴く (斎藤、藤江、榛沢)

10日 ♂、♀交代で巣穴を掘る、口ばしの先は土で汚れている (斎藤)
※1羽が掘る時間は約3分位、♀が掘っている時は♂が
後ろから入り土を掻き出すことが多い

18日 ヤマセミの姿見えず、若葉が茂り観察しづらくなった (斎藤)

24日 ♂、♀ 2羽確認 (斎藤)

5月 4日 ♂ 1羽のみ確認 (斎藤)

5月4日以後、ヤマセミの姿は確認出来ません。どうやら、この地域はカラス

も多く、猟犬の訓練で犬が崖下まで入ってくるといった状況の為、巣を放棄した模様です。

この記録は、日本野鳥の会、東京支部に報告し、支部会報「ユリカモメ」の1988年7月号及び10月号に掲載されました。
(斎藤高昭)

・・・ 随 筆 コ ー ナ ー ・・・



私の初体験

—— 小山 万太郎 ——

表題から察するに、艶っぽい話のように思われるでしょうが、六十路もとうに過ぎ去った私に、そんな話の有りようもございません。ゴメンナサイ

このたびは、本誌の題名でもありますカワセミについての私の初体験を述べさせていただきます。

数年前、NHKテレビで「御宿かわせみ」という時代ドラマが放映された事がありました。その時、「かわせみ」というのは真夏に鳴く油蟬の一種くらいにしか思っておりませんでした。或る時、雑誌の写真を見てカワセミが野鳥であるという事が判り、浅川にも生息していることを知り、以来、私の浅川辺り散歩の日課が始まったのです。けれども、目に入る鳥はどれもスズメばかりでした。こんな毎日が2年ほど続き、もうカワセミに出会う望みも消えかけていた或る日、堤防に腰を下ろして休んでいると、チィーとかすかな声で鳴きながら近くを飛んで行く小さな小鳥を見たのです。

背はコバルト、胸はオレンジ、頬には一際目立つ白線・・・私の視線はその場所に釘づけとなり、しばし呆然として、知らぬ間に浮き足立っていた私の膝は、驚きと喜びで震えていました。

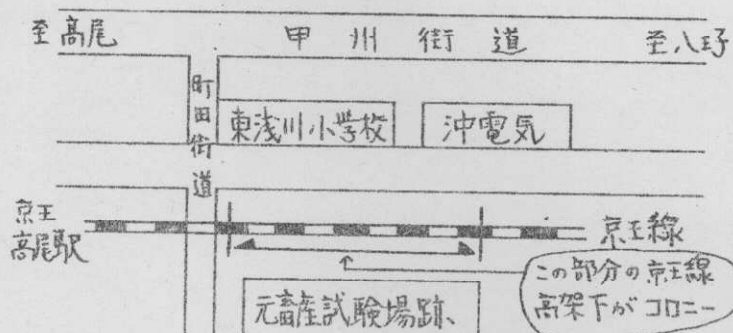
これこそ2年もの間探し続けてきた「カワセミ」だったのです。

以上があこがれの鳥を見た時の私の初体験であります。その後、その場所を通る度に、あの時の光景が眼に浮かびます。ササゴイを初めて見て感動し、大きな魚をくわえた瞬間、思わず眼のふちが汗ばんで眼鏡が曇り飲み込む所を見逃してしまったこともありました。

これからも、色々な野鳥への私の初体験が続くことと楽しみにしています。先輩諸氏のご指導をよろしくお願いします。
(探鳥一年生)

東浅川にヒメアマツバメの越冬コロニー

町田街道と京王線が交差する八王子市初沢の京王線高架下（東浅川小学校と元畜産試験場跡地に挟まれた約100mの区間）にヒメアマツバメのコロニーが発見されました。 ※ 下図参照



ここは、もともとイワツバメの営巣地だったのですが、昨年あたりから、そのイワツバメの巣をヒメアマツバメが乗っ取ったものです。ツバメ、イワツバメは普通冬になると南の国へ帰ってしましますが、ここのヒメアマツバメは越冬しています。ヒメアマツバメは大きさ、形、住んでいる所、営巣状況等イワツバメに似ていますが、ヒメアマツバメの巣は入口の部分に羽が着いていますので、直ぐ見分けられます。

63年10月及び11月に調査したところ、その数約50羽、巣約40が確認されました。日中は数羽が巣に出入りしていますが、夕方上空に集まってきて少し暗くなる頃一斉に巣にはいります。

日本でヒメアマツバメの繁殖が初めて確認されたのは、つい最近の1967年静岡市内で確認され、それ以来各地で確認されていますが、その分布は殆んどが南関東以西の太平洋側に限られており、特に静岡、神奈川に集中しています。

東浅川のような内陸部の寒い所でのヒメアマツバメの越冬コロニーは特異的な現象であります。そこで、今後の数の動向や繁殖状況を継続的に調べる事とし、毎月1回の定期観察を行うこととしました。

この調査に会員の皆さんの積極的な参加をお願いします。

参加の意思のある方は斎藤事務局長までご連絡ください。（文責、粕谷和夫）

湯殿川の野鳥

◆開発が進む湯殿川界限

湯殿川は八王子市の南部を西から東に流れる延長10数km程の小さな川である。高尾町の拓殖大学の上手を源とし、館町、くぬぎ田町、小比企町、片倉町、打越町を蛇行し乍ら長沼町で浅川に合流する。

この探鳥記録は、浅川の合流点から片倉町の住吉橋（国道16号線）に至る約3km間の記録である。

この区間は開発の真最中で、先月まであったアシ原が何時の間にか無くなり、木はどんどん切られ、川岸は次々とコンクリートで囲まれ、川底も削りならされてしまった。原型を留めないまでの工事によって、川は大きく変貌し、昔の面影や情緒などは、すっかり影を潜めてしまいました。

こうして出来上がった川は、金網で囲まれ、人々から隔離されてしまいました。然し、水草も無くなり、きれいに改修されて生物との接点が無くなったように思われたこの川も、一度雨が降ると、せきとめられた狭い堤内に淀みが出来て小さな流れを作りだし、そして、数ヶ月もするとヨシやブタクサが生えカルガモが水草をついばむ程になります。

今回、こうした変化の中で、小さな自然を求めて生きる野鳥の観察記録をまとめてみました。

◆湯殿川で観察できる野鳥

昭和63年中に湯殿川で観察した野鳥は、別表に示した40種である。

その中でカルガモ、キジバト、ハクセキレイ、セグロセキレイ、キセキレイ、ヒヨドリ、シジュウカラ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソカラス、ドバトの12種は年間を通して観察することができました。

夏鳥では、ツバメが全域で見られ、打越中、由井一小、国道16号線の住吉橋辺りには沢山の巣があります。イワツバメは16号線バイパス沿いのハケシタビル駐車場に10個の巣があり、うち6個で繁殖を確認しました。今後、京王線横浜線の高架工事が完成したので、こちらにも繁殖の期待がもてます。

冬鳥は、全地域でコガモ、ツグミ、数は少ないがオナガガモ、タヒバリなどが観察できます。

地域的に見ると、浅川合流点から北野駅辺り迄はヒドリガモ、コチドリ、イカルチドリ、イソシギ、ユリカモメなど、浅川で見られる水鳥がまぎれこんでいる

のを観察できます。

カワセミ、ジョウビタキ、シメは、この観察区域では珍しい鳥であります。以前、打越中学校前の淀みで一度に2羽、北野駅辺りで度々見ることができたカワセミが、工事の故か殆ど見られなくなってしまったのが残念です。

カルガモは湯殿川の「主」で、7月の繁殖調査で4組の子連れを確認しました。

このように湯殿川で観察出来る野鳥は種類、個体数が少ないが、流域の工事が完了して、静かな川に戻った時にどのように変化するか楽しみです。

◆湯殿川を第二の山田川にしない為に

子供達は、高い金網とコンクリート（石垣）の護岸の為、水辺に近づけなくなり「湯殿川は面白くなくなった」と云って身近な川から離れつつあります。

私達は、川の自然との触れ合いの中で、色々なことを学んできました。

今、急速に都市化する中であっても、それを断ち切ることなく共存の方法を何とか見付けていきたいと考えます。

湯殿川の流域は、館ヶ丘、寺田、八王子ニュータウン等の大規模の団地が造られ又新たに計画されています。

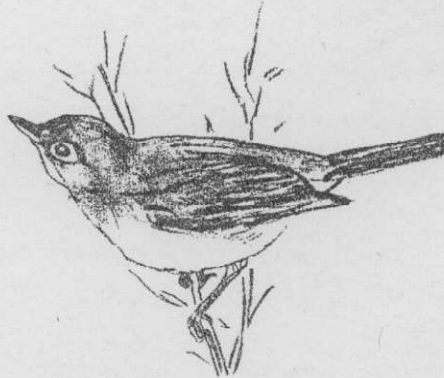
開発が進み小比企丘陵の緑が無くなった時、湯殿川はどうなるのだろうか。

山田川と同じドブ川にしてはなりません。その為にも川との触れ合いをやめてはなりません。子供達にも、ザリガニやフナを捕り、水鳥を追って遊ぶ川をぜひ知ってもらいたい。

当局には、開発に因り増大する雨水を制御し、水質を浄化する為にも、アシ原や砂原などの遊水の場を確保し、保水の為、片倉城跡公園を拡張するなどして、緑を残し、河原に自由に下りて遊ぶ場所も作ることを切望するものです。

そうして「川をきれいに」「水を大切に」等の自然保護運動も広まっていき、鳥相の単純化、個体数の減少も防止することが出来ると確信します。

(門口一夫)



63年 湯殿川探鳥記録

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
観察月日	1.15	2.7	3.13	4.10	5.3	6.18	7.31	8.28	10.1	10.23	11.20	12.18
ゴイサギ	●											●
ダイサギ												●
コサギ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
カルガモ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
コガモ	●		●	●						●	●	●
ヒドリガモ	●		●							●	●	●
オナガガモ	●										●	●
トビ					●			●	●			
コジュケイ	●											
コチドリ					●	●						
イカルチドリ					●	●						
イソシギ						●						
タシギ				●							●	
ユリカモメ	●		●								●	●
キジバト	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
カワセミ	●								●			
ヒバリ			●									
ツバメ					●	●	●	●				
イワツバメ				●	●	●	●					
キセキレイ	●		●		●	●	●	●	●	●	●	●
ハクセキレイ	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●
セグロセキレイ	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●
タヒバリ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ヒヨドリ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
モズ	●	●	●						●	●	●	
ジョウビタキ	●											
ツグミ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
シジュウカラ	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●
ホウジロ	●		●									
カシラダカ	●		●									
カワラヒワ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
イカル			●									
シメ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
スズメ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ムクドリ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
オナガ	●					●	●	●	●	●	●	●
ハシボソカラス	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ハシブトカラス						●	●	●	●	●	●	●
アヒル								●	●	●	●	●
ドバト	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
種												
計	28	16	23	15	20	18	14	13	16	16	21	19

(注) 調査区間 浅川合流点～住吉橋

● 1～5羽

● 6～20羽

● 21羽以上

渥美で初めてツバメチドリを見る

(粕谷会長からの名古屋だより)

時は昭和63年9月15日敬老の日、渥美半島、汐川干潟とその周辺にツバメチドリを求めて探鳥に出かけた。東京方面では台風18号が接近中ということであったが、こちらは30°Cを越す暑さとなった。名古屋を朝7時10分前に出て、現地に着いたのは9時30分。最初はキアシシギしか見当らなかったが、潮が引き、干潟が出始めるとどこからともなくアオアシシギ、ソリハシシギ、ホウロクシギ、オオソリハシシギ、チュウシャクシギが現れ、ハマシギ、ダイゼンの数が増えてきた。アオサギ、コサギも干潟に集結してきた。然しチュウサギ、アマサギは田んぼから離れない。ケリが、イソシギが、ハシボソカラスが遅れて干潟にやってきた。干潟が賑やかになった。田んぼでは、セッカ、ヒバリも多く用水路には、カワセミも出た。養魚池にはアジサシ、カイツブリ、電柱にはそれぞれ1羽づつトビが止まって下をにらんでいる。12時までに35種を確認した。

これからいよいよ、お眼当てのツバメチドリ。出ればいいが……

出ることを祈る。日本野鳥の会機関誌「野鳥」(1979年9月号、通巻396号)に汐川の探鳥案内が記載されていたので、これをザックの中に入れてきた。

現地地、もう一度、ザックから取り出して読み直す。「この時期、近くの埋立地で集団繁殖したツバメチドリが、農作物を収穫したばかりの裸地に、幼鳥を伴ってやってきている。」と書いてある。「繁殖期に比べすっかり地味な羽色に装いを変えているし、じっとしているので、よほど注意しないと見落とししてしまう。」とも書いてある。

この辺り、一面のキャベツ畑で、今は苗を植えたばかりの畑と、これから苗を植える裸地が広がり、ところどころで、スプリンクラーがまわり、畑に水をまいている。こんな広い畑の中でじっとしているというツバメチドリをどうして見つけられようか。ともかくフィールドスコープを20倍の低倍率に変えて、畑という畑を、端からナメテみることにする。あっ！いた！と思ったらヒバリのつがい。次には、ちょっと珍しそうな鳥がキャベツ畑から5羽飛んだ。興奮気味でフィールドスコープを覗くと、これが何とタシギだった。キャベツ畑を移動しながら30数分経過、念の為遠くの畑にもレンズを向けてみる。

あっ！これだ！ 頭の中で描いていたツバメチドリが、レンズの中に入っている。他にもいないか。レンズを左に振ることわずか、20~30m離れた所に

もう1羽。こちらは胸の模様がはっきりしている。図鑑で確認すると最初のが冬羽、後のが夏羽のきれいなやつだ。2羽とも風上の方を向いているが、全く動かない。100羽、50羽と近づくと動かない。さらに30羽程でも動かないもう少し近づこうと思ったら飛んだ。飛んでいる時、腰の白が良く目立つ。飛んでいる格好はツバメに似てないことはないが、ツバメほどスマートではない。およそ300羽離れた別の畑に2羽とも降りた。100羽程の所まで近づいて、またレンズを覗く。何ともう2羽、別のツバメチドリがそこにいた。さらに良く見ると、同じ畑にヒバリ4羽、ムナグロ1羽、コチドリ2羽、インシギ2羽、それにアマサギ3羽がいる。何とぜいたくなウォッチングか。しばし、興奮気味。

すると、さらに4羽のツバメチドリが上空をとんでいる。この4羽も同じ畑に降りた。見つけるのが難しいと思っていたツバメチドリだが、結局この日は帰るまでに別の畑で更に4羽、計12羽を見ることが出来た。

今日のウォッチングは、初めて見たツバメチドリを含め、40種と実り多いものとなりました。
(粕谷 和夫)

探鳥会に初めて参加して

渡嘉敷 敏子

11月半ばの日曜日、探鳥会に初めて参加させていただきました。

今や野鳥の大ファン…… テレビや本でしか見られないカワセミを
実に4度も見られた。

腹部のオレンジ色が印象的だったが、最後は後ろ姿を見せてくれ、そのトルコブルーの鮮やかな対比に 自然の芸術品かと感嘆した。

裸眼では全く確認できず、望遠鏡でのみ見た為、今では幻ではなかったかと思われる。

バードウォッチングを和訳して探鳥という。その二つの語が、どうしても結びつかなかったが、実際に経験して「鳥の姿を捕らえる事」を探鳥、「それを望遠鏡で眺める事」をバードウォッチングなのかなと納得している。それにしても影も形も見当たらないものを望遠鏡に収められる「探鳥」は神事(かみわざ)の様だ。

浅川の堤防で「ヒズミ」発見

「ヒズミ」はお日様を見ることが無いという意味で「日見ず」と呼ばれますが、モグラの仲間の小動物です。一見してネズミに似ていてネズミではなく、モグラに似ていてモグラでもない小さなほにゅうるいです。

この「ヒズミ」が11月13日の公開探鳥会の時に、北浅川の左岸堤防上、中央高速道架橋から上流約100mの地点で発見されました。

このヒズミは体長（頭胴）8～10cm、尾は3～4cm、体はビロード状、手はシャベル状でモグラに似ています。

本来は標高2000m以下の山地の森林で地下にトンネルを掘って生活し、ミミズや昆虫等を主食としていますが、市街地にも多く生息していることが知られており、今回発見されたものは死後間もないもので、堤防上の裸地上（人が通行する部分）に一頭横たわっていたものです。

いわゆる都会派のヒズミと云えましょう。

（※野鳥に限らず、このような野生動物に関する情報についても編集部の方へお寄せ下さい）

※

この自然 いつまでも

広報に載った反響か、鶴巻橋には30名を越す人が集まった。ツグミが褐色の胸で我々を迎えてくれた。横縞のコゲラが胡桃の樹を螺旋状にかけ登る。カルガモが赤い靴履いて河原をウォーキング・・・

「ツイーツ」「あ、カワセミだ」とK氏は望遠鏡を立ててくださる。

あの鳥は川を飛ぶ宝石。枯れ木に止まったカワラヒワも美しい。こんなに色々見られたのに、「チョウゲンボウでも出ないかなあ」とS氏はぜいたくを言う。「昔はオシドリがいたね」「ウグイスもいっぱいいたよ」の声を耳にすると、もっと早く入会すべきだったと悔いてしまう。これからもどんどん減っていくのだろうか。

会長が言われた。「浅川は野鳥の最後の安住の地だ。芝など植えずに、このまま雑草の河原でいて欲しい」

C・K女史記

恒例！ 年末探鳥会

真鶴半島で開催

昭和63年12月31日の大晦日。恒例の年末探鳥会に真鶴半島へでかけました。

JR八王子駅に午前7時に集合した一行(8名)は、横浜線、小田急線、東海道線と乗継ぎ、真鶴半島に9時近くに到着、今でも残る原生林の中を海岸まで、昼食をはさんで約4時間半、本年最後のバードウォッチングを楽しみました。

私達の熱意が通じたのか、イソヒヨドリを先ずばっちり、続いてシロハラを至近の距離で心いくまで観察し、その他アオゲラ、ハヤブサ、そして半島の先ではクロサギを観察することができました。

来年は、きっと良い探鳥年になるようにと期待しつつ、真鶴半島を後にして帰途につきました。

：参加者： 粕谷、榎沢、斎藤、門口、小山、平沢、今井、三好(8名)

：認めた鳥： イソヒヨドリ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、ウミウ、ウミネコ、ユリカモメ、ハシボソカラス、ハシブトカラス、コジュケイ、トビ、ハヤブサ、メジロ、ヒヨドリ、モズ、ハクセキレイ、カワラヒワ、キジバト、シジュウカラ、シロハラ、コゲラ、キセキレイ、エナガ、ヤマガラ、アオゲラ、クロサギ、アオジ、ウグイス、ツグミ、スズメ、ドバト、計30種

：ベスト5： イソヒヨドリ、ハヤブサ、シロハラ、アオゲラ、クロサギ、

P. R の ページ

◎ 新聞の報道によると、環境庁は野鳥の密猟を防止するため、飼われている野鳥の足に識別用のリングをつける新制度を本年4月16日からスタートさせることにし、鳥獣保護法施行規則の改正を3月1日付けで行うと発表しました。このリングはアルミニウム製で12種類あり、飼育の許可番号が刻まれ、いったん付けると壊さなければはずせないようになっています。

4月16日以降、1年ごとの許可更新時に飼い主が都道府県などの窓口で取り付けることとなります。

輸入した野鳥には、今回の制度は適用されないが、同庁では今後、輸入鳥が国内で密猟された鳥の「隠れみの」になっていないかどうか、実態把握を急ぎたいとしている。(読売新聞より)

こうした規制の強化で万全だとは言い難いけれども、一歩前進の措置として大いに歓迎したいものです。

◎ 世界の切手コーナーの紹介 (読売新聞より)



イギリス
海鳥

日本の「トキ(学名ニッポニア・ニッポン)」は、現在

絶滅寸前です。新潟県佐渡のトキ保護センターにいる

ミドリ(オス)と

キン(メス)の二

羽だけになってしま

いました。

絶滅の危機に瀕

しているのは、ト

キばかりではあり

ません。国際保護

鳥に指定されてい

る鳥類は、世界

中で三百種以上、も

いるので

す。

イギリスでは、野生の鳥を保護するため、一八八九年に



「英国鳥類保護協会」が設立されています。一月十七日には、設立百年を記念して、イギリス国内に生息する海鳥を描く切手が発行されました。

いちばん右の鳥は「ツノメドリ」。漫画のキャラクターにもなった人気者です。

つぎは「ソリハシセイヤカシギ」。協会のシンボルになっています。

三番目は「ミヤコドリ」。オレンジ色の長いくちばし特徴です。

最後に「カツオドリ」。海鳥の中で最も大きい鳥です。

この切手は4種セットで、日本での値段は四百八十円。問い合わせは郵政サービスセンター(三三〇四〇一一)に、(日本郵趣協会)定休)へ。

編 集 後 記

- ☆ カワセミ第2号も、お陰をもちまして発刊の運びとなりました。
各位のご協力ありがとうございます。おまたせしてすみません。
- ☆ 平和を願い、こよなく自然を愛された故昭和天皇の大喪の儀がとり行われ、
天皇の御霊は、私達の住む八王子の地に永遠の眠りにつかれました。
昭和天皇のお志を体し、この地が何時までも自然を保ち続けることを心から
願ってやみません。
- ☆ 平成元年1月26日朝7時頃、我が家の庭でウグイスの初さえずりを聞きました。
隣の家人から、お宅の庭で今年はウグイスのさえずりが聞け、毎日
楽しみにしていますと言われ、思わぬところで趣味が生かされたものよと、
一人悦に入っている。
白梅のツボミが一輪、一輪開き始め、春は、もうそこまで来ています。
- ☆ 今年は年初から初認記録が出ています。編集子も皆をアツといわせる探鳥
記録を作ってみたいなどと、意気込みだけは盛んです。
皆さん、元気で探鳥会に参加しましょう。次号をお楽しみに・・・・・・・・

カ ワ セ ミ

1989年 2月 第2号

発行人 粕谷和夫

編集人 三好恒雄

〒 八王子市中野上町5-29-3 ☎ (26) 8634

業務用酒類食品専門卸



株式会社 **ジャッフル浦島屋**

〒192 八王子市元横山町3-7-14

TEL (0426)25-1477(代表)

FAX (0426)25-1248



